【県央】2025年に向けた対応方針　対象医療機関の状況【東部地区】

別紙2-1

平成31年1月31日現在

	医療機関名	作成日	病床種別							現状（病床機能）①						指定・届出等						2025年（病床機能）② ※下段は現状との差（②-①）							機能変更あり（時期）	過剰な病床機能への転換	増床希望あり	課題、今後の対応方針 （第２回ワーキンググループにおける説明）
	開　設　者	更新日		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	救急病院	緩和ケア病棟	地域包括ケア病棟（病床）	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	介護医療院	計				
1	湘陽かしわ台病院	2018.9.28	許可病床	59	60				119		59		60		119					○			39	80	80			199			●	• 在宅療養支援病院であり、地域の介護施設と連携し、通所リハビリテーションを併設して在宅連携を強化している。認知症などの受入れも行っている。 • 医師をはじめとする職員の採用が課題である。 • 急性化から回復期及び慢性期を担う病院とするため、回復期病床（80床）を増床したいと考えている。（平成30年度病床事前協議に公募） • 診療かに変更はなく、地域ニーズに応じた医療サービスを提供し、在宅を含む高齢者施設等との連携を重視し、近隣開業医との関係を強化ししていく。 • 介護系事業所との連携や実務的な会合などが不足しているので、行政等に支援してほしい。
	医療法人社団医誠会	2019.1.31	稼働病床	52	53				105		52		53		105							－	△20	＋80	＋20	－	－	＋80			2018	
2	医療法人社団神愛会 オアシス湘南病院	2018.9.26	許可病床		158				158				158		158										158			158				• 患者の残存機能の維持及び回復を目標にチームでリハビリテーションを提供している。 • 入院維持透析加療に対応するとともに、今後増加する認知症の患者に対して、認知症認定看護師を中心に病院全体で対応している。 • 今後とも、慢性期の分野で地域貢献するとともに、将来的には在宅療養支援機能を高めていきたい。 • 建物が老朽化（建築から30年以上経過）しているが、費用面の不安から建替えや大規模改修の計画の予定はない。 • 地域医療連携推進法人の話があったが、地域で切れ目のない医療が提供できればと考えている。
	医療法人社団神愛会		稼働病床		158				158				158		158							－	－	－	－	－	－	－				
3	さがみ野中央病院	2018.9.18	許可病床	96					96		96				96	○							58	38				96	●			• 海老名市輪番救急、広域輪番救急（海老名市・座間市・綾瀬市）を担当。整形外科手術を中心に急性期機能を担っている。地域医療貢献として、高齢者施設からの緊急入院の要請に応需している。 • 地域で需要の見込まれる回復期機能を計画し、救急から回復期までを対応することをめざす。 • 回復期機能を提供するため、増改築を計画しており、3階病棟を回復期リハ病棟へ変更する。 • リハビリテーション疾患（脳血管・運動器・呼吸器・廃用）に対する診療科（神経内科等）の体制を整備していく。
	医療法人社団　さがみ野中央病院		稼働病床	96					96		96				96	告示						－	△38	＋38	－	－	－	－		2019		
4	医）社団一真会　座間厚生病院	2018.9.27	許可病床		48				48				48		48										48			48				【当日欠席のため、対応方針から抜粋】 • 近隣の総合病院から難病指定（特にパーキンソン病）の終末期の患者や悪性疾患で急性期治療が終了し、緩和治療を要する患者の受入れを主としており、現在の医療体制を維持していく。地域住民が安心かつ信頼して通院できるような優しい医療環境の提供に努める。 • 看取りについて今後の課題である。 • 患者の医療情報の事前共有により治療効率の向上等が見込めるが、カルテ等の電子化が不可欠であり、病院単独での対応は困難なので、行政の協力が望ましい。
	医）社団一真会		稼働病床		48				48				48		48							－	－	－	－	－	－	－				
5	相模台病院	2018.9.28	許可病床	151		155			306		151				151	○							151					151				• 急性期病床では結石治療、精神科、人工透析を同一施設で提供し、心身の同時治療が行えるという特徴がある。 • 増改築を計画しており、地域で不足している、急性期・救急医療確保のため、効率的な稼動を行う。また、精神科患者の合併症の受入れをさらに行っていく。今後増加が見込まれる認知症の治療も考えている。 • 座間市地区での救急医療（成人、小児科）の継続を考えているが、医師確保が課題である。 • 病床変更や診療科の変更は予定していないが、他の亜急性期病院との連携を深めていく。
	医療法人興生会		稼働病床	144		155			299		144				144	告示・輪番						－	－	－	－	－	－	－				
6	医療法人社団昌栄会 相武台病院	2018.9.10	許可病床	41	203				244		41		203		244	○								41	203			244	●			• 慢性期機能を中心と考えているが、地域住民の在宅ケアのため、10月１日から一般病床(41床)を地域包括ケア病棟に転換した。 • 急性期病院からの受け皿として、自宅や周辺施設の受入れを行っており、近隣病院と「競争ではなく協力」が重要と考えている。 • 今後については、慢性期機能を中心に高齢者の受入れを積極的に推進するとともに、在宅復帰後の切れ目のないケアの充実に特化した病院としていく。訪問看護・診療が大切であると考えている。
	医療法人社団昌栄会		稼働病床	41	203				244		41		203		244	告示・輪番						－	△41	＋41	－	－	－	－		2018		

平成31年1月31日現在

	医療機関名	作成日	病床種別							現状（病床機能）①						指定・届出等						2025年（病床機能）② ※下段は現状との差（②-①）							機能変更あり（時期）	過剰な病床機能への転換	増床希望あり	課題、今後の対応方針 （第２回ワーキンググループにおける説明）
	開　設　者	更新日		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	救急病院	緩和ケア病棟	地域包括ケア病棟（病床）	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	介護医療院	計				
7	**座間総合病院**	2018.9.26	許可病床	235	117				352	8	176	90	78		352	○		○	○			8	176	90	78			352				• 総合診療科を中心とした救急医療の提供、実績豊富な人工関節・リウマチセンター、充実した専門職と設備によるリハビリテーションのの提供が特徴である。 • 急性期、回復期リハ、地域包括ケア、療養と幅広い機能を持つ病院として、地域包括ケアシステムの一翼を担っている。 • 救急の受入れを増加させ、市内救急搬送率の向上とともに、ケアミックス病院として医療と介護をつなぐ地域包括ケアシステムの中心となる体制を構築していく。 • 医師がそろっておらず、HCUを運用できていない状況あり、今後の課題である。
	社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス　理事長　鄭義弘		稼働病床	227	117				344		176	90	78		344	告示・輪番		（45床）	（90床）			－	－	－	－	－	－	－				
8	**南大和病院**	2018.9.26	許可病床	140					140		100	40			140	○		○	○				100	40	50			190			●	• 地域医療に貢献するため、がん治療（内視鏡）、慢性腎臓病患者の人工透析、在宅復帰の促進のためのリハビリテーション、救急医療（大和市の輪番に参加）を行っている。また、近隣高齢者福祉施設と連携するとともに、在宅医療（往診、訪問看護・栄養指導・リハビリ）を他の病院や診療所と連携して、提供している。 • 今後は、三次救急病院の負担軽減のため中等症・軽症の救急患者を受入れるとともに、急性期治療を終えた患者を受け入れる。在宅医療を充実さていく。 • 2021年以降に病院を増築し、療養病床50床の増床計画がある。（都市計画法の制限があり）
	医療法人新都市医療研究会「君津」会		稼働病床	140					140		100	40			140	告示		（20床）	（40床）			－	－	－	＋50	－	－	＋50			2021以降	
9	**みどり野リハビリテーション病院**	2018.9.21	許可病床		118				118			118			118				○					136				136			●	• 回復期リハビリ対象患者（脳血管、整形疾患等）に対し、集中的にリハビリを提供し、在宅・社会復帰を目標に医療を提供しており、今後も継続していく。 • 在宅や社会復帰に際し、身体だけなく、高次脳機能障害による認知機能低下の患者に対して、就労や運転支援を実施している。 • 平成29年度病床協議で13床が配分され、11月末までに使用可能となる見込み。平成30年度病床協議でさらに5床を公募。2025年は、回復期136床を考えている。
	医療法人社団緑野会		稼働病床		118				118			118			118				（118床）			－	－	＋18	－	－	－	＋18			2017配分済2018	
10	**社会医療法人三栄会中央林間病院**	2018.9.6	許可病床	109					109		51	58			109	○		○		○			51	58				109				• 地域の二次救急医療を担い、消化器を中心とした急性期治療（外科・内視鏡）、在宅復帰支援を行っており、今後も継続していく。 • 平成29年度に地域包括ケア病床の造酒を実施済みで、病床機能の変更の予定はない。 • 高齢化に伴い、在宅医療の充実が求められており、徐々に訪問診療など在宅医療に取組んできている。
	社会医療法人三栄会理事長　木山智		稼働病床	104					104		50	54			104	告示・輪番		（54床）				－	－	－	－	－	－	－				
11	**桜ヶ丘中央病院**	2018.9.25	許可病床	171					171		45	86	40		171	○			○				45	86	40			171				• 回復期リハビリテーション病棟における集中的にリハビリを実施している。訪問リハビリも実施。大和市救急輪番体制に参画し、24時間体制の救急医療を実施している。健診センターではすべてのがん検診に対応。今後は現在の病床機能を維持し、ケアミックスで地域医療を担っていく。 • 医師が高齢化しており、将来を担う常勤医師の確保が課題である。
	医療法人社団哺育会		稼働病床	171					171		45	86	40		171	告示・輪番			（86床）			－	－	－	－	－	－	－				
12	**愛育病院**	2018.9.10	許可病床	51					51		51				51								51					51				【当日欠席のため、対応方針から抜粋】 • 無痛分娩において神奈川県屈指（全国6位）の実績があり、経験を積んだ助産師が支援している。 • 今後とも、県央地域に欠かせない分娩施設として広く受入れ、地域の中核施設としての役割を果たしていく。
	医療法人　愛育会		稼働病床	51					51		51				51							－	－	－	－	－	－	－				

平成31年1月31日現在

	医療機関名	作成日	病床種別							現状（病床機能）①						指定・届出等						2025年（病床機能）② ※下段は現状との差（②-①）							機能変更あり（時期）	過剰な病床機能への転換	増床希望あり	課題、今後の対応方針 （第２回ワーキンググループにおける説明）
	開　設　者	更新日		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	救急病院	緩和ケア病棟	地域包括ケア病棟（病床）	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	介護医療院	計				
13	大和成和病院	2018.9.25	許可病床	99					99	10	89				99	○						10	89					99				• 循環器疾患専門病院として県内有数の症例数（心臓病手術400症例/年）を確保。TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換手術）実施認定施設で、24時間・365日救急対応をしている。 • 今後とも、県央地域の循環器疾患専門病院として、機能強化と医療体制を維持していく。HCUの復活を検討している。 • 心臓リハビリは行っているが、それ以外については地域の病院との連携が必要と考えている。
	医療法人社団　公仁会		稼働病床	99					99	10	89				99	告示						－	－	－	－	－	－	－				
14	綾瀬厚生病院	2018.9.18	許可病床	108	60				168		84	24	60		168	○			○				112	50	60			222		●	●	• 綾瀬市唯一の急性期病院（二次救急対応）として、基幹病院機能を担えるよう、整形疾患、消化器外科、産婦人科、人工透析を行っている。引き続き、同市の基幹病院として整備する。 • 2025年に向けて、急性期病床（28床）、回復期（26床）の合計54床を増床する計画がある。
	医療法人社団　柏綾会	2019.1.31	稼働病床	108	60				168		84	24	60		168	告示・輪番			（24床）			－	＋28	＋26	－	－	－	＋54		2022以降		
15	大和徳洲会病院	2018.9.27	許可病床	199					199		199				199	○						8	199		41			248	●			• 24時間365日対応できる体制を整え、救急医療を中心とした医療に取組んでいる。 • 地域の中核病院として、いつでも、どこでも、誰でもが最善の医療を受け入れられる、断らない医療をめざす。2025年に向けて、高度急性期8床（HCU等）を稼働を考えている。 • 病院の建替え後6ヶ月であり、各医療機関、施設などと連携を深めている。 • 大和青洲病院の医療提供体制機能を引き継ぎ、地域医療を堅持する。
	医療法人徳洲会	2019.1.31	稼働病床	158					158		158			41	199	告示・輪番						＋8	－	－	＋41	－	－	＋49	時期未定			
16	大和青洲病院	2018.9.	許可病床	49					49				49		49										0			0	●			• 重度の障害者や神経難病患者の長期療養を目的に治療・看護を提供するほか、外来診療で内科や整形外科にも対応している。 • 課題は建物の老朽化→大和徳洲会病院へ49床異動予定 • 65歳以上の高齢者の増加するので、在宅医療に力を入れていく。今後は地域住民のかかりつけとして、急性期疾患から慢性期疾患まで幅広く診療するとともに、医療知識を普及し、健康意識を高めていく。急性期と介護の橋渡し的役割を担っていく。
	医療法人徳洲会	2019.1.31	稼働病床	49					49				49		49							－	－	－	△49	－	－	△49	時期未定			

【県央】2025年に向けた対応方針　対象医療機関の状況【西部地区】

別紙2-2

平成31年1月31日現在

	医療機関名	作成日	病床種別							現状（病床機能）①						指定・届出等						2025年（病床機能）② ※下段は現状との差（②-①）							機能変更あり（時期）	過剰な病床機能への転換	増床希望あり	課題、今後の対応方針 （第２回ワーキンググループにおける説明）
	開　設　者	更新日		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	救急病院	緩和ケア病棟	地域包括ケア病棟（病床）	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	介護医療院	計				
1	厚木佐藤病院	2018.9.26	許可病床	48	82	54			184	0	48	43	39		130			○		○		0	48	43	39	0	0	130				• 神奈川県認知症疾患医療センターの指定を受けており、認知症患者の入院治療が可能で、ケアミックス病院のため、合併症治療も可能である。 • 精神病床（認知症治療病棟）の老朽化への対応が必要 • 県央地区のデータをみると、肺がんや化学療法（特に血液疾患）の自己完結率が低いので、ここに力を入れていきたい。
	医療法人社団　藤和会		稼働病床	48	82	54			184	0	48	43	39		130			（43床）				－	－	－	－	－	－	－				
2	仁厚会病院	2018.9.20	許可病床	87	44				131		87		44		131	○							44	43	44			131	●			【当日欠席のため、対応方針から抜粋】 • 本厚木から徒歩4分の立地。健康増進から医療・介護まできま細やかに対応している。 • 二次救急病院として、幅広い患者を受入れ、地域における回復期機能の一翼を担う。2023～24に急性期から回復期病床に転換） • 医師・看護師不足により、入院患者の減少がみられるので、人材不足の解消が課題。 • 急性期治療を受けた後の患者の受入れ機関としての枠割の検討が必要である。
	医療法人　仁厚会		稼働病床	87	44				131		87		44		131	告示・輪番						－	△43	＋43	－	－	－	－	2023～24			
3	医療法人 沖縄徳洲会 湘南厚木病院	2018.9.7	許可病床	253					253	10	184	59			253	○			○			10	184	59				253				【当日欠席のため、対応方針から抜粋】 • 救急医療を柱に高度先進医療から高齢者医療まで地域のニーズに応えるべく努力している。 • 特に四肢外傷に特化した外傷センター、心臓血管外科治療にも力を入れている。 • がんの早期発見や再発フォローの件さに優れたPET－CTを完備。健診、人間ドッグ部門の充実を図っている。 • 診療機能の拡充、地域連携の強化が課題。引き続き、急性期・回復期機能を担う。
	医療法人　沖縄徳洲会		稼働病床	246					246	10	177	59			246	告示・輪番			（59床）			－	－	－	－	－	－	－				
4	近藤病院	2018.9.27	許可病床	111					111				111		111	○									111			111				• 障害者病棟として重症慢性期患者を受入れ治療の継続を行うことを中心としつつ、輪番を担い、脳卒中を中心に、消化器疾患等の軽症の急性期、回復期治療の一旦を担う。 • 今後も引き続き、同様の役割を果たしていく。
	医療法人　仁愛会		稼働病床	90					90				90		90	告示・輪番						－	－	－	－	－	－	－				
5	亀田森の里病院	2018.10.1	許可病床	62					62		32	30			62	○		○		○			32	30				62				• 回復期病床転換施設整備補助（H28）を受け、急性期病床62床を急性期病棟32床と地域包括ケア病棟30床に新設編成した。 • 在宅診療を開始しており、近隣開業医や施設等との連携を行い、地域包括ケア病棟の役割を果たせるよう在宅強化を図り、地域医療に貢献していく。 • 引き続き、二次救急病院として、高度急性期又は急性期からの受入れ、在宅復帰支援を行う。在宅復帰後のフォローアップも行っていく。 • 本年11月から、森の里地区の高齢化を踏まえ、通知リハビリテーションを設置した。今後介護体制についても支援を行う予定。 • 医療圏を越えているが、東海大学と連携し、後方病院として連携している。
	医療法人鉄蕉会		稼働病床	62					62		32	30			62	告示・輪番		（30床）				－	－	－	－	－	－	－				
6	愛川北部病院	2018.9.18	許可病床	100	50				150		50	50	50		150	○		○					50	50	50			150				• 愛川町唯一の病院として、地域医療の充実に努めており、二次救急病院としての役割を果たしている。 • 大学病院等との連携を密にし、高度医療が必要な際には受診できるような体制としている。リハビリの強化に努め、開業医との連携に努め、引き続き、在宅復帰を推進していく。 • 地域的な問題があり、職員確保が難しい点が課題である。 • 本年11月に院内に訪問看護ステーションを開設した。
	医療法人社団福寿会		稼働病床	100	50				150		50	50	50		150	告示		（50床）				－	－	－	－	－	－	－				
7	医療法人社団 葵会ＡＯＩ七沢リハビリテーション病院	2018.10.25 11.2	許可病床		245				245			245			245									245				245				• 12月１日からAOI七沢リハビリテーション病院に名称変更した。 • 現在の入院患者は145名（回復期適用の患者は20名）で、回復期病棟として2病棟運用を開始している。開院から1年以内に承継前と病院と同様の「一般病床」に転換することとしているが、前倒しでできる目途がたった。地域からの患者の受入れが少ないので、よろしくお願いしたい。 • 全病床回復期リハ病床として、リハビリテーションに特化して運営。脳血管疾患患者へのリハビリに力を入れていく。 • 急性期治療を経過した患者にリハビリを提供し、早期在宅・社会復帰を図り、県央地区における回復期機能の一翼を担っていく。
	医療法人社団　葵会	2018.12.3	稼働病床		133				133			133			133							－	－	－	－	－	－	－				

【県央】2025年に向けた対応方針　対象医療機関の状況（精神科病院）

別紙2-3

平成31年1月31日現在

	医療機関名 開設者	作成日 更新日	病床種別							現状（精神科専門病棟の病床数）						2025年　病床種別						2025年（精神科専門病棟の病床数）						機能変更あり（時期）	課題、今後の対応方針 （第２回ワーキンググループにおける説明）
				一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計	急性期治療	精神療養	認知症治療	合併症	その他（アルコール、薬物、児童・思春期）	計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計	急性期治療	精神療養	認知症治療	合併症	その他（アルコール、薬物、児童・思春期）	計		
1	相州病院 医療法人社団　青木末次郎記念会	2018.11.26	許可病床			263			263	60	157	46			263			263			263	60	157	46			263 －		• 病床機能や診療科の変更等は考えていない。 • 入院患者は250人前後である。急性期治療の充実により、自宅退院率が上がる(78.4%)中、地域の定着が必要。地域生活に移行するため、退院支援の充実が必要。 • 高齢化による認知症高齢者の増加を踏まえ、認知症治療の充実が必要。 • 身体合併症に対応するため、地域の病院との連携が必要。 • 措置入院で、アルコールや薬物等の患者が入院した場合はチームで対応している。 • 慢性重症者等、薬での治療困難な患者に対してm－ECTを導入している。周辺の病院からの紹介患者も受け入れている。
2	愛光病院 医療法人　弘徳会	2018.11.26	許可病床			359			359	57		214		88 精神一般77 児童・思春期11	359			359			359	57		214		88 精神一般77 児童・思春期11	359		• 病床機能や診療科の変更は考えていない。 • 老朽化した建物(2棟)の建替え等を計画しており、建替え後は病床は減少する。 • 統合失調症など退院が難しい重度かつ慢性患者の高齢化に伴い、身体合併症患者が増加し、自院での治療困難なケースが増加している。 • 精神科救急輪番体制を継続し、精神科救急期医療を提供していく。統合失調症だけでなく、うつ病やストレス系疾患への対応のため復職訓練に強化していく。精神科訪問診療にも力を入れている。児童・思春期の精神科として専門性を発揮していく。
3	神奈川中央病院 医療法人社団　やまゆり会	2018.11.24	許可病床			180 稼動120床			180			180			180			180			180			180			180		• 昨年度は院長交代等が続いてたが、平成30年3月に就任した院長は変わりはない。10月1日に理事長及び事務長が任期満了で退任し、若返りを図った。今後は安定すると考えている。 • 現在120床で運用しているが、来春に向けて150、180床にしていく予定。 • 現在の入院患者は約70人。80歳前後の方が多い。家族や施設が認知症の症状が強く困っている方の受入れをしている。 • 高齢の患者が多いので、精神科だけでなく、内科の医師と連携して治療をしていきたい。 • 地域の認知症治療の専門病院としての役割を担う。 • 軽度認知症患者の診療を充実し、地域とのコミュニケーションを強化していきたい。地域の認知症患者へのフォローを行っていく。
4	清川遠寿病院 医療法人　増田厚生会	2018.11.26	許可病床			325			325		153			172	325			325			325		103	50		172 精神療養病床50床を認知症治療病床に転換	325	● 2019年	• 入院患者の減少が見込まれるので、体制について検討が必要と考えている。 • 高齢化による認知症患者の増加を踏まえ、認知症治療の充実が必要と考え、精神療養病床(50床)を認知症治療の病床に転換する予定(31年4月頃届出を予定) • 患者の高齢化に伴い、身体合併症等に対応するため、地域の病院との連携が必要と考えている。多いときは、月10人以上を地域の病院にお願いしている。 • 地域生活移行後の訪問体制の充実が必要と考えている。厚木、橋本にクリニックがあり、デイケアや訪問を行っている。訪問チームは3チームあるが、土地柄、地域が広範囲であり、対応できる数には限りがある。
5	大和病院 医療法人　正史会	2018.11.26	許可病床			250			250		180			70 精神科一般病床	250			240			240	60	180	未定		精神科一般病床70床を60床に削減し、精神科急性期治療病棟へ変更	240	● 時期未定	• 現在250床(精神療養180床、一般70床)で、病院外に、デイケア、綾瀬市の訪問看護ステーションを持ち、地域での生活をサポートしている。 • 将来的には、精神科一般病床70床を60床に削減し、精神科急性期治療病棟への変更を考えている。 • 入院患者の高齢化により、身体疾患の合併症が考えられ、自院でどこまで治療するか、地域の病院との連携の検討が必要。